

令和6年度8020公募研究事業
研究報告書抄録（採択番号 24-6-17）

研究課題：学童期の子どもにおけるう蝕歯数と静的姿勢安定性の関連性の検討

研究者名：小野すみれ

所 属：山梨大学医学部附属病院歯科口腔外科学講座

【目的】

高齢者において、残存歯数が姿勢保持能力に影響を及ぼすことが報告されているが、学童期における混合歯列期の子どもたちでは、口腔環境と姿勢機能との関連性について検討された例は少ない。本研究では、学童期児童における口腔環境と姿勢機能の関連を明らかにすることを目的とした。

【対象と方法】

本研究は、日本環境子ども調査（JECS）の副次調査として、2019年7月から2021年3月にかけて実施された追加調査データを用いた。対象は8歳児717名であり、記録された変数は、永久歯の未処置う蝕歯数（D）、永久歯の修復歯数（F）、乳歯の未処置う蝕歯数（d）、乳歯の修復歯数（f）、咬合力、咬合接触面積、および姿勢機能（COP 面積）であった。各変数間の関連性を検討するため単回帰分析を行い、相関行列を作成した。

【結果】

性別、BMI、大腿周囲長を調整した後でも、COP 面積の増大は永久歯における修復歯数（DF）の増加と有意に関連していた（95%信頼区間：15.73-61.791、 $p=0.001$ ）。

【結論】

混合歯列期における未処置う蝕歯数は、児童の姿勢機能と関連している可能性が示された。